

八瀬鉄工所 株式会社八瀬鉄工所

代表取締役社長 八瀬 弘司 氏

日本で唯一クランクシャフトの一貫生産を行い、
若手の職人育成に力を入れて取り組んでおられる
株式会社八瀬鉄工所 代表取締役社長 八瀬 弘司 氏に
お話を伺いました。



経歴・趣味

高校卒業後、愛知県の大学の外国語学部へ進学。学生時代のアルバイト経験から飲食業界に興味を持ち、大学卒業後は2年半飲食業界を経験。その後家業である八瀬鉄工所へ入社。2012年に代表取締役社長に就任。飲食業界での経験から、自身で作ったもので喜んでもらうことにやりがいを感じ、現在でも社員に向け、週に一度「社長食堂」を実施している。

会社概要・沿革

当社は1924年に私の曾祖父が創業し、2024年に100年を迎えました。創業当時は特定の業界・分野に特化せず、生産性を上げるための機械をなんでも作る「発明家」のような仕事を行っていました。その後、大手造船所と取引を開始し、船舶用部品生産を請け負ったことで実績を挙げました。現在まで続くクランクシャフトの製造・加工事業を開始したのは1961年頃で、製造物のほとんどが船舶のエンジンに使用されていました。

2000年頃までは祖母が会長、父が社長を務めており、私は大学卒業後も家業に囚われず好きなことをしたいという想いがあった飲食店で働いていました。しかし、祖母が逝去したことをきっかけにそれまで名古屋に在住していた私は実家へ戻る決断をしました。真逆の業界へ転身したため最初のうちは苦労もありましたが、現場で技術を学ぶ他、古くから付き合いのあった取引先の勧めから品質管理について学び、品質管理優良認定工場にも認定いただきました。



本社社屋

一つの分野に依存しない経営に転換

当社の転機と言えるのはリーマンショックの翌年以降で、主要な取引先が3割程減少したことから、船舶用エンジンに依存しない体制づくりを始めました。その効果は徐々に表れ、現在の製造品は全体の約7割が船舶用エンジン、約3割がその他産業分野のプレス機やコンプレッサーに使用されるクランクシャフトとなっています。

そして入社から12年が経過した2012年に代表取締役社長に就任しました。37歳と当時では比較的若い年齢での承継でしたが、先代の社長である父の「経営について分からないことを聞ける今のうちに承継したい」という想いを受け止め、事業承継を行いました。父以外にも祖母の時代から当社に勤めている豊富なキャリアを持った4人の職人にも各場面で支えてもらいました。そして、それまで職人頼りだった現場の製造フローを自動化し、若手にとって働きやすい環境にするために設備投資を進めました。船舶用エンジン以外の産業分野への参入も推し進め、その甲斐あってか祖母の悲願であった工場の増築も叶いました。

景気動向

リーマンショックの影響は1年遅れで発生しました。経営危機になるほどではなかったものの、そこから数年をかけて徐々に元の業績に戻っていきました。コロナ禍でも一度業績が下がりましたが、回復も早く、現在は安定した経営を行えています。また、当社は日本で唯一クランクシャフトの一貫生産を行っています。図面さえあれば1から製品を作ることでも可能ですので取引先からも信頼を得た経営ができており、「クランクシャフトのことなら八瀬鉄工所」と言っただけのことが多くなりました。

従業員教育

従業員数はパート含め34名で、そのうち14名が30代以下の若手です。一人前の職人になるには15年～20年がかかるので、現場での従業員教育は基本的にOJTです。一人前になるまではひたすら修行のような訓練が必要ですが、その中でも分からないことをすぐ質問できる人は成長が早いと感じています。現場での経験が一番の財産になりますので、私はそういった環境を整えるようにしています。特にクランクシャフトの不良は今でこそ年に1度あるかないかの程度まで減りましたが、職人の技術に頼りきっていた時代はよくありました。一つのクランクシャフトを仕上げるには数か月の時間が必要です。時間と安全は取り戻せるものではないので、若手を育てるためにも自動化は今後も進めていく予定です。

クランクシャフトは一般の人の目には届かない製品ですので、やりがいを感じるのが難しい職種であると思います。私自身もお客様の反応が直接伺える飲食業に就いていましたので、その点でギャップを感じる場面がありました。「この仕事が社会貢献しているのか」と悩むこともあるかもしれませんが、自分たちの製品が日本の物流を担う大きな船に使われていることや、生活には欠かせない製品に使われていることを通してやりがいを感じてほしいと願っています。



社長食堂で従業員の輪をひろげる

クランクシャフト加工は精密な作業を1日かけて行うため、従業員一人ひとりが責任を持って真剣に集中して取り組まなければならない現場です。そのため従業員同士のコミュニケーションが不足しがちですが、従業員全員でやりがいを感じられる会社になりたいという思いが常にあり、週に1度、社員に向けて昼食を振舞う“社長食堂”を実施しています。真剣な現場から一変、柔らかな雰囲気で一息ついてコミュニケーションを取れる環境が構築でき、さらに従業員の健康も気遣える「人」に重きを置いた経営ができているのではないかと思います。従業員からは味の感想や料理のリクエストなどもあり、コミュニケーションが生まれ、私自身も頑張っているというより料理を楽しみながら振舞っています。いずれは社員食堂の整備も進め、社員だけでなく地域の人も来られるようにすることが理想です。



社長食堂

100年を迎えて

100周年記念として当社のマスコットキャラクターが誕生しました。当社の昔からの技術を支える侍「くらんく軸の介」と最新の技術と機械を用いて進化を続けるヒーロー「クランクシャフトマン」です。新旧あってこそその八瀬鉄工所という意味を込めました。採用活動のための広報で活用する予定です。



今後の展望

採用を強化し、若い世代の人材確保に力を入れていきたいです。私たちの世代が職人から技術を教えてもらったように、クランクシャフトのニーズに応じていくための技術を40代以降のベテランから若手に継承してもらうことが目標です。設備投資はお金があればできますが、人材育成については10年近い年月が必要です。そういったことを考えると、会社を動かす中で「人」は最も重要であると思えますし、今後も「人」に重きを置いた経営を続けていきたいと思っています。

会社概要

本社所在地：〒671-0254 姫路市花田町勅旨字橋爪90
(工場見学歓迎！)
TEL：079-253-1360 FAX：079-253-8803
URL：https://yase.co.jp



HP



Instagram



X(旧Twitter)